# 令和6年度【大田区立山王小学校・授業改善を図るための全体計画】

・教育基本法
・学習指導要領
・東京都、大田区教育目標
・おおた教育ビジョン

**学校教育目標**
・心豊かで　思いやりのある子
・よく考え　進んで学ぶ子
・丈夫な体でやりぬく子

・学校、地域の実態
・地域や家庭の願い
・期待される児童像

**各教科の指導の重点**
学習への興味・関心を高め、基礎的・基本的な事項を確実に身に付けさせる。

**総合的な学習の指導の重点**
自分にとって必然性のある課題を、習得・活用・探究の学習プロセスの中で、協働的に問題解決を進め、深い学びを実現する。

**進路指導の重点**
一人一人の児童が多くの人から認められ、期待される生き方を発見できるような指導を行う。

**学校経営の基本方針**
〇知・徳・体のバランスの取れた教育活動の推進
〇意欲あふれる学びの場や学びの機会の構築
〇児童一人一人に寄り添う教育の推進
〇新教科「おおたの未来づくり」にかかる研究実践の発表
〇組織的な対応の徹底

**道徳教育の指導の重点**
生命尊重・他者への共感を中心とし、教育活動全体を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

**特別活動の指導の重点**
行事や学級活動を通して、学校生活の充実と向上を図り、より豊かな学校生活を築こうとする態度を育成する。

**生活指導の重点**
基本的生活習慣の徹底と、よく考え、正しく判断し行動できる児童の育成を図る。

## 本校の授業改善に向けた視点

| 教育課程編成上の工夫 | 学習指導の工夫・改善 | 評価活動の工夫 | 家庭や地域社会との連携 | 校内における研究や研修の工夫 |
|---|---|---|---|---|
| ・各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間について、学期ごとにその実施時数を見直すことで、時数の確保を図る。<br>・算数科において、習熟度別指導及び少人数指導を取り入れ、基礎・基本の充実を図る。<br>・朝の時間を活用して、定期的に読書活動を行い、言語活動の基盤とする。<br>・小・中の連携を生かした教育活動を行う。<br>・デジタル教材、書画カメラ、電子黒板、1人1台のタブレット等の ICT 機器を活用した授業を行う。また、教員相互が学び合える場を設定し、指導力向上のための校内研修を行う。 | ・新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」を意識しながら、インプット型の授業（詰め込み型）からアウトプット型の授業（課題解決型、活用・探究型）へと変換を図る。その過程の中で、児童の思考・判断・表現力を高める。また、大田区の新教科「おおたの未来づくり」の先行実施及び総合的な学習の時間（マイタイム）を活用し、課題解決型の授業を展開する。<br>・「話す、聞く、書く」の表現活動を様々な学習場面に取り入れ、コミュニケーション力の伸長を図る。<br>・体力テスト、都体力測定を有効活用し、一校一取組、一学級一実践を計画的に進め、児童の体力向上を図る。 | ・各教科とも評価規準及び評価基準を明らかにした評価計画を作成し、実践に役立てる。<br>・基礎・基本の学習では、大田区学力効果測定の結果等の活用を図りながら、個々の評価を行い、次の段階の指導に生かす。<br>・教科の観点別評価内容については、保護者会などを通じて学期ごとに保護者に説明を行う。<br>・総合的な表現活動の発表の場として運動会、展覧会を実施する。 | ・保護者会や地域教育連絡協議会、スクールサポート山王などを通して、地域や保護者と連携を深めると共に、外部評価を教育課程編成に反映させる。<br>・地域や保護者に向けた道徳授業地区公開講座を実施し、道徳教育の向上に努める。<br>・体育・健康教育の授業公開を実施し、地域や保護者の意見を募り、児童の体力向上に資する。<br>・夏季休業中に地域、保護者との協力をもとに、夏休みわくわく体験講座を開催し、交流を深める。<br>・「本の花束」、「図書ボランティア」など、PTA や地域ボランティアの協力を得ながら、読書活動の充実を図る。 | ・研究主題を「主体的・協働的に学ぼうとする力の育成～人・こと・ものとの豊かなかかわりを通して～」とし、「おおたの未来づくり」の授業実践について校内研究を進める。児童が自分にとって必然性のある課題を試行錯誤しながら解決していくことを通し、主体的に取り組もうとする意欲や協働して物事を解決していく姿勢を培うとともに、教師の指導力の向上を図る。<br>・年間7回の研究授業を提案し、低・中・高学年・専科ごとに先行、本時、改善の指導計画による実践を行うとともに、互いに参観し合う中で、授業力の向上を図る。<br>・各教科主任は、指導教諭の授業で学んだことを、報告会を通して他の教員に広め、学校全体の学習指導力の向上を図る。 |